

採択されても止まる研究、止まらない研究 - AMED採択・PMDA対応・伴走PMで実現する事業化戦略

大学発ベンチャーの失敗事例とAMED審査・支援現場の知見から学ぶ、
採択後に止まらない研究開発ロードマップ

こんな課題を感じていませんか？「研究テーマには自信があるのに採択につながらない」「採択後、次に何を進めるべきかが見えず止まってしまう」「PMDA対応や事業化をどのタイミングで考えるべきかわからない」——そうした悩みを抱える研究者・URA・大学発ベンチャー関係者に向けた講座です。優れた研究成果があっても、それだけでは社会実装には届きません。実用化の成否を分けるのは、研究の質だけでなく、研究費の選定、研究体制の設計、規制戦略、意思決定の進め方、そして事業化までを見据えた全体構想です。

本講座では、AMEDの審査・事業運営側と、大学・研究機関・大学発ベンチャーの伴走支援現場の双方を経験した講師が、研究成果を社会実装へつなぐための実践知を、失敗事例・成功事例を交えて解説します。単なる「採択ノウハウ」ではなく、研究と公募のフィット分析、審査者の視点、ヒアリング対策、採択後に研究を止めないPMDA対応、伴走PMの実務、Mission Complete Teamの考え方までを一気通貫で学べる点が本講座の特長です。

AMED・JST・NEDO等の競争的資金への応募を検討する研究者、URA・ARO、大学発ベンチャー経営者、研究開発責任者にとって、「採択される研究」と「社会実装まで進む研究」の違いを具体的に理解できる実践講座です。採択のための申請論にとどまらず、“採択後も止まらない研究開発”まで見据えて学べる点が、本講座ならではの大きな価値です。

期待される効果

- ☑ 採択される研究と、採択後も前に進む研究の違いがわかる
- ☑ AMED申請、PMDA対応、伴走PMを一つの流れとして整理できる
- ☑ 自分の研究・支援業務・事業計画で次に打つべき一手が明確になる



講師

田村 友子（たむら ともこ）講師

TM&C 代表

看護師として医療現場を経験後、臨床研究、研究開発マネジメント、事業化支援までを横断して実績を重ねてきた、社会実装戦略アーキテクト。

医療現場での実務を起点に、SMO、大学病院、大学研究支援部門、公的研究開発機関、公益財団法人など多様な立場で、臨床研究支援、プロジェクトマネジメント、人材育成、研究開発事業の企画運営に従事。行政・アカデミア・医療現場・企業・ベンチャーをつなぎ、研究成果を社会につなげる実行支援を強みとする。

特に、北海道大学病院ではデータマネジメントチームリーダー・プロジェクトマネージャー、慶應義塾大学医学部臨床研究推進センターではTR部門・PMO部門のPMおよびRM支援ユニット長を歴任。

AMEDでは研究総括役付主幹、事業副総括として複数事業の企画運営・評価・進捗管理を担い、研究推進基盤の整備にも貢献した。公的資金獲得支援では、支援研究費総額10億円超の実績を持つ。

現在は、大学発ベンチャー支援、研究開発マネジメント、薬事・事業化支援を中心に活動。複雑な研究開発プロジェクトを俯瞰し、多様な関係者を束ねながら、構想段階から社会実装まで伴走できる点に強みがある。専門性と現場感覚の両方を備えた実践者として、研究と社会をつなぐ支援を行っている。

採択されても止まる研究、止まらない研究 - AMED採択・PMDA対応・伴走PMで実現する事業化戦略

第1部 なぜ有望な研究ほど、社会実装の手前で止まってしまうのか

— 研究力だけでは越えられない“見えない壁”を、どこでどう越えるか

- 「死の谷」はどこで生まれるのか — 研究が止まる本当の理由
- 研究者視点から社会実装視点へ — 出口から逆算する発想転換
- 失敗事例に学ぶ、研究成果が実用化につながらない典型パターン

第2部 採択される研究は、何が違うのか — AMED攻略の実践戦略

— “良い研究”が採択されるとは限らない理由と、審査側が見ている本質

- AMED・JST・NEDOなど公的資金の違いと、研究に合う公募の選び方
- 審査者は何を見ているのか — 採択率を左右する評価の視点
- 研究と公募のフィット分析、採択される体制づくり、伝わるヒアリング対策

第3部 採択後に止まる研究、止まらない研究 — PMDA対応と伴走PMの要点

— 採択は入口にすぎない。研究を止めないために、次に何を考えるべきか

- PMDA対応はいつ始めるべきか — 開発初期に整理すべき論点
- 採択後に止まる案件の共通点 — Go/No-Goとロードマップ設計の実務
- 伴走PMは何をするのか — 研究者・経営者・当局をつなぐ交通整理の技術

第4部 研究者一人では進まない — 大学発ベンチャーを動かす体制設計

— 研究者一人では進まない時代に、何をどう組めば前に進めるのか

- Mission Complete Teamとは何か — 社会実装に必要な専門性の組み方
- 大学発ベンチャーの失敗事例・成功事例から学ぶ、止まらない体制設計
- 資金獲得を事業化につなげるために、今押さえるべき実践ポイント

セミナー概要

2026年 9月10日(木) 13:00~17:00

【Live配信】Zoomによるオンライン受講 【アーカイブ配信】9/14-9/28

※LIVE配信をお申込みの方は、追加料金なしでアーカイブ配信の受講が可能です。

【定員】定員無し

【受講料】36,000円（税別）（税込：39,600円）※1名

※同一企業様から複数名同時にお申し込み頂くと、人数に応じて下記割引が適用されます。

[2名様⇒20%、3名様⇒30%、4名様⇒40%、5名様以上⇒50%の割引となります]

※開催日の1週間前を目安に、最少開催人数に達していない場合は開催中止とさせていただきます。

申込書

採択されても止まる研究、止まらない研究 - AMED採択・PMDA対応・伴走PMで実現する事業化戦略

以下の事項をご記入の上、日本アイアール・セミナー事務局宛にFAXまたはメールでお申込みください。

（※当社ホームページからのお申込みも可能です。）

会社名		部署名	
住所			
お名前		電話番号	
メールアドレス		受講形態	Live配信・アーカイブ配信

*受講形態はいずれかに○を付けてください。

日本アイアール セミナー事務局

FAX：03-6206-9993

MAIL：ir@nihon-ir.co.jp

(TEL：03-6206-4966)